

## ＜山梨県南アルプス市＞住民投票 市庁舎整備「増改築案」が多数 市計画継続へ

毎日新聞 2016年3月21日 地方版

南アルプス市の市庁舎整備計画を巡る住民投票は20日、投開票された。「増改築案」が「新築移転案」を上回り、市の計画が支持される結果となった。投票率は49・92%で、金丸一元市長が投票結果を受け入れるか否かの判断基準としてきた昨年の市長選の投票率60・63%を大きく下回った。市は現在の増改築計画を推進する構えだ。

同市では庁舎の老朽化に伴い、中込博文・前市長が新庁舎の建設計画に着手した。しかし、昨年4月の市長選で増改築での対応を訴えた金丸氏が初当選。その後、新庁舎計画を中断して増改築へと方針を転換した。

これに反対して新庁舎建設を求める市民グループが直接請求を行い、市議会で住民投票条例が成立。条例では、投票結果に法的拘束力はないが、市長と市議会に結果の尊重を求めている。

新庁舎建設を求める「市民生活と庁舎を考える会」は災害時の機能強化を訴える一方、増改築を支持する「南アルプス市100人会」は新築に伴う市財政の圧迫を主張。告示後、それぞれ街頭活動などで支持を訴えた。

増改築案では、同市小笠原にある本庁舎の利用を続ける。基本構想案によると、本庁舎東に地下1階、地上1階の耐震棟を付設し、従来以上の広さを確保する。本庁舎にも耐震改修工事を施す。付近の宅地を買収し、駐車場をさらに約40台確保する。費用は約10億2000万円を見込んでいる。

当日の投票資格者数は5万7237人（男2万8034人、女2万9203人）だった。 【藤渕志保】